

## 臨床研究

### 「本邦における肺切除術後脳梗塞に関する周術期、手術因子の解析：他施設共同研究」 について

筑波大学附属病院呼吸器外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。

本研究の概要は以下のとおりです。

#### ① 研究対象

2004年1月から2013年12月までに当院で肺切除術の治療を受けた患者様です。

#### ② 研究の意義・目的・方法

肺切除後脳梗塞は約3%の頻度で発症すると報告されており、時に重大な結果（死亡、後遺症など）を招くことがあります。近年、肺切除時の術式によって脳梗塞の発症のリスクが異なる可能性が指摘されるようになってきました。時に左肺上葉切除後は、左肺静脈が長く残る傾向にあり、その断端への血栓形成が多く見られるとの報告があります。肺静脈の血栓は遊離すれば、直接大動脈に入り込み、脳梗塞の原因となることが考えられます。これらのことから、本研究では肺切除術後における脳梗塞の発症について、周術期、特に手術術式における特徴を明らかにすることを目的とします。方法は本邦において2004年1月から2013年12月までの間に肺切除を受けた患者の中で脳梗塞を発症した患者を非発症の患者と比較検討して、脳梗塞発症との関連する因子（特に術式）について検討します。

#### ③ 利用する診療情報の項目

年齢、性別、身長、体重、Performance status、喫煙の有無・量、飲酒の有無、術前治療の有無、併存疾患、呼吸機能、頸部エコー、病名、腫瘍部位、術前の病期、術前抗凝固療法・抗血小板両方の有無、ヘパリン置換の有無、手術日、手術の内容（術式、出血量、輸血の有無）、術中合併症、術後脳梗塞（有無、発症日、後遺症の有無、術後胸部CT撮影の有無と日にち、心臓内血栓の有無）、術後のその他の合併症、術後診断、術後の抗凝固療法、抗血小板薬の再開の有無、最終転帰

#### ④ 保有する個人情報に関する利用目的

術前、術中、術後因子での脳梗塞発症と関連する因子を検討します。なお、本研

究は他施設共同研究であり、呼吸器外科学会関連施設の肺切除症例をもとに研究を行います。

⑦ 情報の利用の範囲

得られた診療情報の項目は、肺切除後脳梗塞に関する周術期、手術因子の解析のみに利用します。

⑤ 保有する個人情報の開示手続

患者様の氏名等の個人情報が識別できる情報は登録されません。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。患者様やご家族様が個人情報の開示を希望知る場合は下記へお問い合わせください。

③ 研究機関名・研究者名

研究代表者：長崎大学大学院医歯薬総合研究科 腫瘍外科 永安武

本院における代表者：筑波大学大学院人間総合科学研究科 呼吸器外科 佐藤幸夫

⑥ 保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学附属病院

〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：呼吸器外科 佐藤幸夫 小林尚寛

電話・FAX：029-853-7991